

**平成 29 年度第2回霧島市地域公共交通会議 会議要旨**

開催日時	平成 29 年 10 月 2 日（月） 10：30～12：00		
開催場所	霧島市役所 別館4階 大会議室		
出席委員	平野会長、濱田委員（代理）、諸留委員、加治木委員、福森委員、二宮委員、中村博人委員、中原委員、有村純徳委員、有村初夫委員、久保田委員、傳委員、前田委員、東丸委員、木下委員、西森委員（代理）、黒江委員（代理）、平田委員、吉見委員、中村美祿委員（代理）、梶尾委員（代理）、山口委員、中堀委員、塩川委員、満留委員、越口委員、池田委員、島内委員、堀之内委員、花堂委員（計 30 人）		
事務局	西地域政策課長、岡留地域政策グループ長、甲斐地域政策グループ主査（計 3 人）		
委託請負業者	株式会社ケー・シー・エス九州支社（計 2 人）		
公開・一部非公開又は非公開の別	公開	傍聴人数	0 人
<b>議事</b>	<p>報告第 1 号 平成 29 年度事業計画の経過報告について</p> <p>議案第 1 号 横川ふれあいバスの運行回数の変更について</p> <p>議案第 2 号 周遊観光バスの実証運行について</p>		
<b>その他</b>	公共交通利用促進等に係る平成 30 年度の取組について		
<b>審議結果等の概要</b>	<p align="center">○：委員      ●：事務局      ◎：霧島 P R 課      ⊙：委託請負業者</p> <p><b>報告第 1 号 平成 29 年度事業計画の経過報告について</b></p> <p>→(株)ケー・シー・エスが資料 1 に基づき説明。委員からの主な質問は次のとおり。</p> <p>○バスと J R との接続を良くするためのダイヤ調整は可能か。</p> <p>◎資料 1 の P33 の表を見ていただきたい。列車からバス、バスから列車に乗り換えるときのダイヤの接続状況をチェックしており、赤字もしくは赤線で囲んでいるものは次の便が出るまでに 5 分未満又は 30 分以上であり、乗り継ぎがうまくできていない状況である。なお、市外からの広域路線の一環として仕業が組まれているものもあるため、大幅な遅れがある場合もある。そのため、循環バスのみ仕業を組むと、接続が強固になるような見直しも可能であると思われる。</p> <p>○公共交通の利用促進等に係るワークショップをここまで丁寧にやっているのは九州でもめずらしく、素晴らしい。ワークショップ参加者の 30 名はどのような募集の仕方をしたのか。</p> <p>●ワークショップの募集に関しては、市内全域の自治会へチラシを送付し、回覧板を回していただいた。また、市内の一定規模以上の事業所に対し開催案内を送付した。そのほか、霧島市青年会議所など、まちづくりに関連する市内の団体の方々に直接声をかけさせていただいた。</p> <p><b>議案第 1 号 横川ふれあいバスの運行回数の変更について</b></p> <p>→事務局が資料 2 に基づき説明。原案のとおり承認。委員からの主な質問は次のとおり。</p> <p>○横川ふれあいバスの当該系統について、祝日にも運行を行うとのことであるが、どのくらいの需要があるのか。</p> <p>◎本議案にあたっては、溝辺ふれあいバスを祝日運休にするという選択肢もあったが、溝辺ふれあいバスのサービス低下につながらないよう、現状のサービス水準を維持するという</p>		

観点から、横川ふれあいバスの当該系統を祝日にも運行させたいという趣旨である。

## 議案第2号 周遊観光バスの実証運行について

→霧島PR課が資料3に基づき説明。原案のとおり承認。委員からの主な質問等は次のとおり。

園 土日祝日運休のバスが多く、観光客から観光協会のほうにクレームがきていたが、周遊観光バスの運行が開始されることは大変ありがたい。周遊観光バスの運行が決定した際は、観光協会のホームページなどを通じPRに努めたい。実証運行で終わることなく、継続して運行されることを望む。また、最近は団体旅行者が減少しており、台湾、香港からの個人観光客が増えてきていることから、バスマップや主要なバス停の英語表記を行ったところである。観光客が団体から個人へシフトするという点からも、2次アクセスの充実は重要である。

園 来年3月末の実証運行終了後も、継続して運行されるのか。

◎ 来年は明治維新150周年の年に当たることや大河ドラマが1年間を通じて放映される。国が進めている「国立公園満喫プロジェクト」では政府が一丸となって外国人観光客を受け入れるという方向性が出ている。それに対する市の使命としては、受け入れ態勢の充実を図ることだと考えている。バスの継続運行にあたっては予算が絡むため、現時点で明確な回答はできないが、乗車率等を勘案しながら、基本的には継続運行の方向で準備を進めていきたい。一方、実証運行の結果、効果がないと見込まれる場合は、他の様々な手段の検討も必要である。基本的には観光客の受け入れ態勢の充実に努めたい。

園 乗車チケットの販売方法はどのようにするのか。鹿児島交通㈱の「のったりおりたりマイプラン」バス一日乗車券などもあるため、お客様に混乱が生じないようにする必要がある。

◎ 今後、調整をしていくため確定ではないが、料金システムの設計にあたり、まずはお客様が分かりやすいようにしたい。「のったりおりたりマイプラン」バス一日乗車券は現在、市街地から霧島、牧園方面の路線バス、市が委託している妙見路線バス、登山者を対象とした霧島連山周遊バス、これらを一日1,100円で乗れるサービスであるが、外国人を中心として非常に伸びてきている。様々なニーズに応えるためには、「のったりおりたりマイプラン」の中で利用できるのがよいと考えている。一方で当バスの運行にあたっては、多額の費用を要するため、価格設定がどの程度まで受け入れられるか、お客様のご意見を伺いながら今後、検討していく。販売所に迷惑をかけたり、お客様に解りづらくなならないような料金システムにしたいと考えている。

園 新設する丸尾バス停の場所はどこか。また、丸尾での待機中はバスはどこに駐車するのか。

◎ 丸尾の既存のバス停を活用する方向で進めたい。待機中の駐車場については、今後、契約するバス事業者と調整をしたい。まずはこのバスを成功させるのが先決である。本年12月を目途に車両のPR等をしていく予定であるため、ご協力をいただきたい。

## その他

→事務局が資料4に基づき説明。委員からの主な質問等は次のとおり。

園 JRやバスでも利用できるICカード導入の検討が必要ではないか。また、警察と連携し免許証の自主返納者に対するサービスを充実させるべきではないか。電気バスの導入に向けて、バス運行事業者やバス製造会社と連携し、霧島市を実験の場とするものよいのではないか。駅に関しては、バスの案内の他にタクシーの電話番号も掲示するようにしたほう

がよい。また、主要駅には英語表記、中国語表記等で交通アクセスの案内をしてはどうか。  
バスマップについても、多言語表記していただきたい。

㊦すぐできるもの、検討が必要なものがあるが、積極的に取り組んでいきたい。

㊦免許証の自主返納者へは、市から14,500円分のバス乗車カードを提供している。また、免許証の自主返納者は小型タクシーが1割引きで利用できるなどのサービスもある。各地域で様々な取組を実施しているため、今後、拡充していく方向で考えたい。

㊦バスに乗ったことがない児童・生徒もいるため、小中学校での出前講座にあたっては、環境負荷軽減等の話だけではなく、体験乗車なども取り入れ、乗車マナーや乗り方なども説明していただきたい。

会議資料

【配付資料】

- 霧島市地域公共交通会議委員名簿
- 平成29年度事業計画の経過報告について【資料1】
- 横川ふれあいバスの運行回数の変更について【資料2】
- 周遊観光バスの実証運行について【資料3】
- 公共交通利用促進等に係る平成30年度取組について【資料4】
- 霧島市地域公共交通会議設置要領